



退任教授ご挨拶

教えることは学ぶこと

新潟大学大学院保健学研究科 看護学分野
 地域看護学・公衆衛生看護学 教授 小林 恵子

2011年の4月に保健学科に赴任し、この3月に懐かしい校舎を去ることになりました。

これまで実習をはじめとする教育活動や研究活動を支えてくださったときわ会会員の皆様には心より感謝申し上げます。

今、この原稿を書いている私の目の前には、約半世紀前、医療技術短期大学部に入学した直後の懐かしい写真があります。宿泊ガイダンスが行われた胎内平で、教授の二木コト先生をはじめとする先生方や友人と並んで全員が柔らかい笑顔の懐かしい写真です。この写真が写し出しているように、友人と看護観を熱く語り合うそばには、いつも学生の自由な発想や考えを尊重して見守ってくださっていた温かい先生方がおられました。卒業を目の前にして友人と、看護をさらに深めたいという思いから、「看護学」を学問として体系化するにはどうすべきかを真剣に考え、近接領域の専門書を読み解きながら熱く語り合ったことも懐かしい思い出です。「教えることは学ぶこと」、いつも先輩の教員が語っておられた言葉です。教員となってからは教えるために学び続け、思考の柔軟な学生の皆さんからもたくさんの研究につながるヒントもいただきました。

私が新潟大学に赴任してから大切な宝物となった二つの教育活動があります。

一つは佐渡におけるフィールド実習です。佐渡保健所や佐渡市の保健師さんとの忌憚のない意見交換を行い、お互いが「学生の学びを高めるために」また「地域住民の健康や活力のために」と、全戸訪問や住民代表者との交流を実施し、学生が考えた健康対策を住民の方に提案し、それを5年間継続して実施したことによる影響評価を検証し、一つの実習モデルを作ったことです。

二つ目は大学院の地域看護専門看護師の教育課程を開設し、行政保健師の専門性を高めるプログラムを開設、実施できたことです。専門看護師は専門分野の教育課程の認定を受けた大学院で養成し、日本看護協会認定している制度であり、資格取得後も5年ごとに更新の審査もあります。すでに専門看護師の資格をもつ保健師さんたちと一緒に、大学院教育を行い、実践と教育のよい循環となっております。私自身は実践者でいたころから、プロフェッショナルとして体系的に学び続ける必要性をいつも感じておりましたので、院生と一緒に学び直せる教育プログラムは至福の時間でした。「教えることは学ぶこと」、やはり教育は実施する人が一番学ぶ機会を与えられていると実感しております。

本当に長い間、お世話になりました。今後はときわ会の一会員として後輩の皆様のみますますのご活躍を応援するとともに、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



CNS 研修会の様子

定年にあたって

新潟大学医学部保健学科 大学院保健学研究科
母性看護学・助産学教授 定方 美恵子

この度、定年を迎えるにあたり、ときわ会の皆様一言ご挨拶を申し上げます。

私事ですが、新潟大学に28歳から65歳まで、37年間もの長きにわたり、仕事をさせて頂きました。新潟大学での教員生活は、自分の人生そのもののような感があります。

私が教育の世界に入るきっかけは、新潟市民病院で勤務していた時、医療技術短期大学部（以下医短）の母性看護学の助手のお話がありました。新潟県看護協会の教育委員をしていた時でした。古い看護協会の建物に、医短の原萃子先生、長浦レイコ先生が訪ねて下さいました。荷が重いと思い、主任の曾我淳先生にお断りに行ったら肩の力を抜きなさいと励まされ、気持ちを切り替えたのは、南山会の会報にも書かせていただきました。

どう勉強して、どのように講義をするのか、暗中模索の日々が始まりました。松川リツ先生と津野良子先生、村上生美先生とも同じ研究室でしたので、学生からの質問にどう応えるか、夕方、実習から戻ると相談に乗ってくださったことを思い出します。授業前には教案検討会があり、どんなにベテランの先生も授業の目的・内容・教授方法をまとめた教案を出して、教授はもちろんですが、助手も意見を述べる、そんな平らかな風土があったことはとても救われることでした。その平らかな風土は、学生の皆さんにも脈々と伝わっているはずです。

新潟大学の医短は教育にとっても力を入れており、学生さんも忙しかったんですが、教員も朝から夕方まで実習指導、夕方は看護計画の個別指導、並行してカンファレンス企画の相談、土曜日はクラスカンファレンスで学生と看護系教員が一堂に会し、看護を語る、そのような教育を行っていました。首都圏の医療機関に勤務する卒業生も多かったのですが、新潟大学で学んできた人たちは優秀だから、是非とりたいと言ってくださる看護部も多く、とても誇り高く感じながら、看護教育に邁進しました。仕事を続けることができたのは、優秀な学生の皆様のおかげです。

そして一気に時間は飛びます。

4年制になり大学教育が始まり、すぐに大学院教育も開始しました。大学院では院生さんが研究を進められるよう指導します。これはなかなか、難儀なことでした。テーマのオリジナリティや研究への熱意はあっても、社会人のため、お互いに隙間時間をすり合わせ、研究を進めます。論文が完成できるだろうかというヒヤヒヤ感は今も同じです。学生時代に学んだことは専門職として仕事をするための糧ではありますが、何も研鑽しないと枯渇します。同窓生の皆様も、大学院で学びたいと思われたなら、どうぞ迷わず、母校の大学院に戻ってきてください。

さて、今後のことですが、皆様とどこかでお会いすることがあるかと思いますので、その時にはぜひ声をかけてください。元気で仕事をされているのだと実感することが、何よりの楽しみです。皆様のさらなる御活躍を祈念しております。最後に懐かしの上高地の景色をお送りします。



懐かしい上高地の風景



ときわ会の寄付金の御礼、活用状況について



新潟大学大学院保健学研究科看護学分野主任 有森 直子

このたびは看護学専攻に対し多大なご寄付をいただきありがとうございました。教員と学生を代表し心から感謝申し上げます。今回、ベッドのキャスター交換26台分に使用させていただきました。本学では、短大時代からの物品を大切に使用しております。ものを大切に使うことは、看護の基本でもあると思います。しかしながら、ベッドのキャスターは、経年劣化もあり、日々の演習・実習に支障をきたしておりました（キャスターの新旧の写真と移送の演習風景参照）。

2020年から、COVIDS-19の影響で、臨地実習が難しくそれに代わる学内での演習が多くなっておりますので、多くの演習・実習科目で使用しますベッドの修理は大変助かります。

学生からは感謝の言葉が多数聞かれています。あらためて皆様のご厚情に感謝いたします。

現在、保健学科では諸々の取り組みを行っています。先述しましたCOVIDS-19により、非対面での教材が開発されています。演習内容のデモンストレーションYoutube動画、シミュレーション教材、学生が自宅でも練習できるような物品の創作（分娩介助用）。オンデマンドの実習関連教材は繰り返し自分のペースで学習できるというメリットも、実感しています。

大学院では専門看護師教育も継続しています。また、県内の様々な機関と協力して、感染看護認定看護師のコースも次年度から新たに開講されます。

今後とも本学へのご理解、ご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

交換前のキャスター

黒い部分が剥がれ落ち、ベッドを動かすことができなくなっていました。



交換後のキャスター

移送技術の演習では、ベッドをスムーズに動かすことができました。



令和3年度第13回新潟大学看護系同窓会 ときわ会総会・特別講演会報告

ときわ会副会長 戸川 紀子

令和3年6月5日(土)新潟大学看護系同窓会ときわ会総会および講演会を開催いたしました。開催にあたっては新型コロナウイルス感染防止対策を考慮しながらの会場設営を行い、会員の皆さんが楽しみにされている懇親会はないというスタイルで実施しました。

特別講演は2020年3月に新潟大学大学院保健学研究科を退官された村松芳幸先生より「withコロナ時代をしなやかに生きる」というテーマで講演をしていただき、保健学科の在校生も参加していただきました。COVID-19のストレス回避には「正しい情報」が必要であり、すぐにできるストレス対処方法としては①情報から離れる(テレビを消す/SNSから離れる)②不安を吐き出す③体をリラックスさせる等を学びました。また、実際紙面と唾液アミラーゼ測定によるストレスチェックを行い自身のストレスにも気づかされました。コロナ禍の中での開催ではありましたが、先生の温かいお話とともに参加した学生さんとも交流ができ役員自身も癒されました。



学生、同窓生一体となった講演会



村松先生の講演風景(アクリル板使用)



総会の様子

■新潟大学看護系同窓会ときわ会第13回総会報告

日 時：令和3年6月5日（土） 13時～14時

場 所：ANAクラウンプラザホテル新潟 芙蓉の間

1. 報告事項（平成30年～令和2年）

（1）庶務報告

役員会開催、南山会代議員会書面決済参加、理事会開催

（2）事業報告

- ・ときわ会会報発行（第19号、第20号、第21号）
- ・会員名簿の整理、入会案内
- ・ときわ会総会、講演会、懇親会特別講演開催
- ・新潟大学医学部保健学科教育祭事への協力
保健学科看護学専攻への演習用具購入の寄附として3年間で300万円の寄附を予定し実施した。
- ・ドナルド・マクドナルドにいがたへの寄附
令和2年7月「ドナルド・マクドナルドハウスにいがた」設立のために新潟大学医歯学総合病院にときわ会から300万円の寄附を臨時理事会で承認を得て実施した。
- ・学生（準会員）との交流会開催 2回
- ・南山会分科会としての活動

（3）決算報告

（4）会計監査報告

2. 審議事項

（1）事業計画案（令和3年～令和5年）

- ・会員への広報 ときわ会会報、南山会分科会便り
南山会HPへのときわ会会報Web掲載
- ・研修会開催、母校への教育催事への参加、会員名簿整理、クラス会開催支援

（2）予算案（令和3年～令和5年）

（3）会則変更について

現在クラス幹事は在校時のみで卒業後は活動していないことを確認したことから会則第9条クラス幹事の項の削除について提案された。

会則18条「議事は出席者の過半数をもって決する」とあり、以上（1）～（3）の審議結果、前回一致で承認された。

平成30～令和2年度 収支決算書 (平成30.4.1～令和3.3.31)

《収入の部》

(単位：円)

項目	予算額 (a)	決算額 (b)	比較 (a) - (b)	備考
前期繰越金	4,169,441	4,169,441	0	
会費収入	2,400,000	2,200,000	200,000	南山会平成30年77人、平成31年73人、令和2年70人
学生交流会補助費	600,000	600,000	0	南山会より200,000円×3年間
雑収入	100,000	36,118	63,882	貯金利子、懇親会費
定期預金取崩	3,000,000	3,000,000	0	第四銀行定期預金解約
収入合計 (A)	10,269,441	10,005,559	263,882	

《支出の部》

項目	予算額 (a)	決算額 (b)	比較 (a) - (b)	備考
1. 会議費	450,000	359,785	90,215	
総会・懇親会費	200,000	214,131	-14,131	平成30年懇親会飲食等
役員会費	250,000	145,654	104,346	役員会、理事会、交通費等
2. 事業費	5,390,000	7,611,030	-2,221,030	
出版費	560,000	788,578	-228,578	第18号、第19号、第20号会報印刷費
弔意費	0	0	0	
研修会費	1,000,000	391,034	608,966	第13回、第14回全学同窓会懇親会参加費
学生交流会運営費	750,000	420,500	329,500	平成30年、平成31年「先輩と語る会」運営費
会員連絡・名簿管理費	80,000	10,918	69,082	名簿作成費等
寄附金	3,000,000	6,000,000	-3,000,000	新潟大学医学部保健学科看護学専攻ドナルドマクドナルドハウスへの寄附
3. 事務費	560,000	359,498	200,502	
通信費	300,000	24,250	275,750	送料、郵便料金、振込手数料等
文具・印刷費	20,000	4,128	15,872	封筒・領収書等
貸金庫利用費	40,000	39,120	880	貸金庫利用料 単年12,000円 (税抜)
人件費	200,000	292,000	-92,000	総会受付業務・会計指導管理料
4. 予備費	3,869,441	0	3,869,441	
支出合計 (B)	10,269,441	8,330,313	1,939,128	

《次期繰越高》

次期繰越高 (A-B)	収入額	支出額	次期繰越高
	10,005,559	8,330,313	1,675,246

事務局からのお知らせ

1. 「クラス会開催支援用宛名シール」発行について
使用目的はクラス会開催連絡に限ります。また、個人情報保護のために手続きを厳守してください。ご希望の方は、ときわ会事務局へメールまたは、郵便で問い合わせください。
2. 住所氏名等の変更があった方へ
住所氏名等の変更があった方は、新潟大学ホームページより保健学科同窓会南山会ホームページの各種手続き内の「住所変更、氏名変更」への入力または、ときわ会事務局にご連絡ください。
3. 「同窓会費 (終身会費)」について 卒業までに納入できなかった方へ
会費未納者へ個別の会費納入依頼は行っていません。
南山会ホームページ <http://www.nanzankai.org/> でのご案内をしておりますのでご覧ください。
ご不明な点は、ときわ会事務局にお問い合わせください。

ときわ会事務局宛先 メールアドレス：tokiwakai@clg.niigata-u.ac.jp
〒951-8518 新潟市中央区旭町通2番町746
新潟大学医学部保健学科気付 新潟大学看護系同窓会 ときわ会事務局